

	<h1 style="text-align: center;">進取の気概</h1> <p style="text-align: center;">（校長室だより）</p>	<p style="text-align: center;">有田市立箕島中学校</p> <p style="text-align: center;">自主 友愛 剛健</p>	<p style="text-align: center;">R5・5・8</p> <hr/> <p style="text-align: center;">No.4</p>
-----------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------

昨日まで、ゴールデンウィークでした。休みが続きましたが、規則正しい生活ができたでしょうか??ところで、5月3日は「憲法記念日」でした。日本国憲法が作られたことをお祝いし、日本という国の成長への願いが込められた祝日です。



下は、日本国憲法前文の一番最初の一文です。声に出して読んでみましょう。

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたって自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。

井上ひさしさんの絵本「井上ひさしの 子どもにつたえる日本国憲法」の中で、上の文は次のように分かりやすく翻訳されています。

国民がみな、ひとつのところに集まって話し合うことはできないし、たとえできたとしても、やかましくてなにがなんだかわからなくなるだろう。

そこで私たち国民は、決められたやり方で「代わりの人」を選び、その人たちを国会に送って、どうすれば私たちの未来がよりよいものになるか、それをよく話し合ってもらうことにした。私たちが、同じ願いをもつ世界のほかの国の人たちと心をつくして話し合い、そして力を合わせるなら、かならず戦はいらなくなる。私たちはそのようにかたく覚悟を決めたのだ。今度の戦で、つらく悲しくみじめな目にあつた私たちは子どもや孫たちとのびのびとおだやかに生きることが、ほかのなによりも大切であると信じるようになった。そこで私たちは代わりに国会へ送つた人たちに二度と戦をしないやうにと、しっかりとことづけることにした。この国の生き方を決める力は私たち国民だけにある。そのことをいま世界に向けてはっきりと言い、この国の大切なかたちを憲法にまとめることにする。

また、井上ひさしさんはこの絵本の中で、こう仰っています。「前文は、憲法のいちばん最初に書かれていますが、その内容は、憲法全体のまとめといつてもいいでしょう。ここでいちばん大切なことは、『日本国民は』という主語ではじまっているところ。文書の主語と述語が離れているので、ちょっとわかりづらいですが、『この憲法をつくつたのは日本国民である』と、書いてある。政府が国民に命令するのではなくて、国民が政府に命令してるんですね。…(略)…」

私たち一人ひとり日本国民です。祝祭日に込められた意味をしっかりと考え、これからも休日を大切に過ごしましょう。

※「井上ひさしの 子どもにつたえる日本国憲法 著：井上ひさし 絵：いわさきちひろ 講談社」は図書室に置いてありますので、ぜひ読んでみてください。司書の先生に聞いてみてください。